



日光二荒山神社 大鳥居



日光二荒山神社 社殿

今号の『Bratto』は宇都宮特集ということで、それにちなんだ謎を…。

二荒山神社または二荒神社と名の付く神社は、主に栃木県内を中心として福島や茨城、群馬、新潟、そして遠くは香川県にも、合わせて三十数社ありますが、中でも日光二荒山神社と宇都宮二荒山神社は、つとに知られています。しかしながらこの両神社には平安時代（西暦927年）に出された延喜式神名帳に記載されている**名神大社**（みょうじんたいしゃ：律令下において、古来靈験あらたかな神々を祀る格式の非常に高い神社）**下野国一宮二荒山神社を巡り“我こそが平安時代の名神大社なり”という論争があります。**ということで、今回はその論争の謎に迫ります。

そもそも、名称が同じということで両神社のルーツは同じなのか、またどこかで何か繋がりででもあるのでしょうか。両神社を簡単に比較してみます。名称ですが、日光神社は“ふたらさん神社”と読みます、二荒は日光の語源とも言われています。宇都宮神社は“ふたあやま神社”もしくは“ふたあやま神社”と読み、後述しますがこれまた宇都宮の語源の一つとも言われています。祭神や歴史では、日光神社は大己貴命（おおなむちのみこと）が主祭神で、西暦767年に勝道上人が創建したとされ、一方宇都宮神社は豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）が主祭神で、西暦350年頃に奈良別王（ならわけのみ）が曾祖父の豊城入彦命を氏神様として祀ったのが始まりとする説が有力です。

上記のように、両神社は生まれも育ちも違うし、ほとんど繋がりがあるとは思われませんが、あえて繋がりを

探してみると、日光神社を開いた勝道上人は下野薬師寺（7世紀末頃から西暦1571年まで現在の下野市にあった大寺院）の修行僧でありました。その下野薬師寺は下毛野氏（しもつけのうじ：7世紀頃から15世紀頃まで栃木県南部に存在していた豪族）の氏寺で、宇都宮神社のトップに宇都宮氏が就くまでは下毛野氏の関係者がトップを務めていたそうです。両神社を繋いでいるのは、これくらいの細かい糸でしかありません。

本題に戻りますが、両神社が“我こそが平安時代の名神大社なり”との根拠は、日光神社の言い分として、『二荒山は男体山の古名であるし、平地の宇都宮には山という概念が無い』としています。宇都宮神社は『延喜式神名帳には下野国一宮河内郡池辺郷二荒山神社（宇都宮市池上町の池はこれに由来するといわれています。）とある、日光なら都賀郡ではなかろうか、また下野国一宮が訛り、宇都宮になったという説もあるくらいだ』ということです。（語源に関して、御諸別宮と奈良別宮という二人の荒ぶる現の宮（うつつのみや）の存在が二荒山になって、うつつのみやが宇都宮になったという説もあります。）

はたして、いずれがいにしえの名神大社であったのでしょうか。どちらにしても、**我が県には現在より一千年以上前になる平安の昔から、二荒山神社という格式の非常に高い名神大社が鎮座して人々をお守りしていた**、そのことは間違いのない事実です。

さて、この謎には諸説ありますが、定かではありません。ここが謎の面白さです。

小池工業株式会社 小池 仁



宇都宮二荒山神社 大鳥居



宇都宮二荒山神社 社殿



職場の“花”から“戦力”へ

頑張れ「ドボジョ！」

男の聖域といわれた土木業界に女性の進出が目立っている。名付けて「ドボジョ」。土木関係の職場で働く女性を最近はこちらで呼ぶ。少女マンガの主人公としても登場し、注目度は高まる一方だ。かつては職場の“花”のような存在だった女性社員が立派な“戦力”として活躍しているのである。中村土建株式会社（本社・宇都宮市、渡邊勇雄社長）に勤務する柏倉亜美さんもそんな「ドボジョ」の一人である。

建設業で働きだし4年が経ちました。現場での仕事にも慣れ、仕事の流れも把握することができるようになりました。一級建築施工管理技士の資格も取得することができ、今では現場を一人で担当させてもらっています。一人で現場を任されることなどまだ先のことだと思っていたので、担当が決まったときはとても驚きました。そして、本当に一人でできるのかと不安にもなる一方で、楽しみにもなりました。

私は、大学で建築学を専攻していましたが、入社し建築現場に配属されると右も左もわからないことばかりで、先輩について回って学んだことを今でもよく覚えています。夏は炎天下の下で、冬は身体芯まで凍えるような寒さの中での現場管理は、想像していたよりも遥かに大変で厳しい仕事でした。1年目の夏は見事にヘルメットのおごひも焼けが顔にできてしまい、ヘルメットを被らないプライベートでは化粧で隠すのに大変苦労しました。今では夏場の日焼け止めは必需品で、日焼け止めの消費量はもしかしたら栃木県で No.1 かもしれません。

逆に冬場は寒さとの戦いです。私は冷え性なので上着やズボンの下には何枚も重ね着をし、靴下は3枚 + ホッカイロと、完全防備。そのくらい着込まなくては寒くて外での仕事はできません。現場で働いていてもやはり女性なので、美容と健康には気を遣ってしまいます。

建築現場で働くということは私の想像よりも大変で厳しい仕事です。何度も心が折れそうになりましたがそれでも今まで続けてこれたのは、どんなに辛いことがあっても、携わった建築物が完成した喜びや達成感は何物にも代えることができないからです。また、辛いことよりも楽しいことのほうが多かったからだと思います。



▲頼りになる先輩方と



▲社員旅行の一コマ



▲現場に咲く「一輪の花!？」

職場環境において一番重要だと思われるのは人間関係だと思います。それについて、私は恵まれていると思います。何でもすぐに相談に乗ってくださる上司や先輩。厳しいときもありますが、その厳しさがあってこそ成長していくのだと思います。そして、現場で一緒になる職人の方たちもとても優しい人ばかりです。一人で作業していると、大丈夫？手伝いますか？などと強面（こわもて）の職人さんが優しく声を掛けてくれます。現場で唯一の女性ということもあり、かえって気を遣ってもらっているような気がします。

建設業はまだ男性社会です。しかし、男性社会に女性が入ることでもまた違った視点から物事を考えられるようになると思います。

今後の目標としては、「一級建築士の取得」そして、少しでも早く一人前として“戦力”になれるよう、日々精進していきたいと思っています。

中村土建株式会社 建築部 柏倉亜美